

エコモビコラム

★第1回★

第1回のテーマは、「『エコモビリティライフ』とは」、「『エコモビ』のメリット（CO2の削減・健康編）」です。

①「エコモビリティライフ」（エコモビ）とは

「エコモビリティライフ」（略して「エコモビ」）とは、環境（エコロジー）の「エコ」、移動の「モビリティ」、生活の「ライフ」をつなげたことばで、クルマ（自家用車）と電車・バス等の公共交通、自転車、徒歩などをかしこく使い分けて、環境にやさしい交通手段を利用するライフスタイルをいいます。

愛知県は、クルマの保有台数が全国一で、東京や大阪などの他の大都市圏に比べてクルマの利用が多い交通体系となっています。

クルマは非常に便利で、生活に不可欠な交通手段ですが、クルマへの過度な依存は、地球温暖化や交通事故、中心市街地の空洞化や渋滞などの問題にもつながります。

「エコモビ」を推進することにより、こうした問題の解決を図り、持続可能な社会の実現を目指しています。

②「エコモビ」のメリット（CO2の削減・健康編）

「エコモビ」を実践することで、次のようなメリットが期待できます！

【CO2の削減】

本県のCO2排出量のうち、運輸部門からの排出量は18.7%を占めています（2019年度数値）。手段別で見ると、クルマ（自家用車）が1人を1km運ぶのに排出するCO2排出量は、バスの約2倍、鉄道では約8倍であることが分かっています（2019年度数値）。従業員100人がクルマ通勤からエコ通勤に切り替えると、年間で約108tものCO2を削減でき、通勤時などに自家用車の利用を控える「エコ通勤」を実践することで、地球温暖化防止策として非常に大きな効果が得られます。

【健康の増進】

クルマで約25分の道のりを徒歩と電車で行く場合、カロリー消費量は約2倍になります（40歳代男性の場合で、往復のカロリー消費量70⇒142kcal）。クルマ通勤者はエコ通勤者に比べて約1.5倍、肥満の割合が高いというデータもあります。事業所として、クルマ通勤者にエコ通勤への転換を促すなど、「エコモビ」を実践することで、従業員の健康増進にもつながります。

★エコモビコラム（第2回）★

第2回のテーマは、『『エコモビ』を实践しよう！～新しい移動サービスのお話～、『エコモビ』のメリット（渋滞の緩和・交通事故リスクの軽減編）』です。

① 「エコモビ」を实践しよう！～新しい移動サービスのお話～

近年、MaaS(マース)という言葉が聞かれるようになりました。MaaSとは、Mobility as a Serviceの略で、出発地から目的地までの移動に対し、様々な移動手段・サービスを組み合わせる一つの移動サービスとして捉えるものです。

MaaSアプリである「my route」や「CentX」では、ルート検索からチケット購入までアプリひとつで完結でき、電車・バス・タクシー・シェアサイクル・カーシェアリングなど、街の様々な移動手段を組み合わせるルートを提案してくれます。

普段何気なくクルマで移動されている方でも、他の交通手段に変えてみることで、かえって早く着いたり、安全に楽に移動できたりするかもしれません。MaaSアプリを活用して、自分にとってどんな方法で行くのがよいか、クルマ以外の手段も考えてみてはいかがでしょうか。

※シェアサイクル

自転車をほかの人と共有するシステム。サイクルポート（自転車の貸出、返却を行う場所）の中から好きなポートで自転車を借り、好きなポートで返すことができます。

※カーシェアリング

クルマを所有せず、多数の人でクルマを共同利用するシステム。近くにステーションがなくても、目的地近くまで公共交通で行き、そこからカーシェアリングを利用するという方法もあります。

② 「エコモビ」のメリット（渋滞の緩和・交通事故リスクの軽減編）

【渋滞の緩和】

朝夕の通勤時間帯などでは自動車交通が集中し、渋滞の原因となっています。渋滞は道路の通過可能量を超えるクルマの通行により発生しますが、その超過分は数%から10数%程度といわれています。クルマ通勤からエコ通勤への転換などでクルマの通行量が数%減少するだけでも、地域の渋滞緩和につながります。

【交通事故リスクの軽減】

運転免許を持っている方の実に6人に1人が一生のうちに交通事故（人身）を起こすというデータがあります（運転免許の保有期間を50年で計算）。この数字には、免許を持っていて運転をされない方も含まれていますので、普段、クルマを利用する方の交通事故のリスクはさらに高まることになります。日頃から「エコモビ」を实践することは、こうしたリスクの軽減にもつながります。

★エコモビコラム（最終回）★

最終回のテーマは、「コロナ禍においても、できることから『エコモビ』を実践しよう！」です。

○コロナ禍においても、できることから「エコモビ」を実践しよう！

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、公共交通機関の利用呼びかけが難しい場合もありますが、エコ通勤をはじめとする「エコモビ」につながる取組は様々であり、できることから呼びかけ、実践いただければと思います。ご参考までに、昨年度実施しました「エコモビ実践キャンペーン2021」での構成員の取組事例をご紹介します。

【自転車通勤の奨励】

- ・屋根付き駐輪場の確保、カッパ干し場等の設置、
- ・駐輪場に、ヘルメットや防寒具を置く場所を新たに設置
- ・従業員のシャワー室の無料使用可
- ・夕方に薄暗くなるため、夜光テープや夜間照明を設置
- ・自転車盗難防止用にチェーンやワイヤーをかけられるポールやシャッター付きのガレージを設置
- ・自転車通勤者についても通勤手当を支給

【従業員の交通行動転換促進】

- ・「コミュニケーション・アンケート」の実施

【相乗り通勤】

- ・複数の現場担当者がいる現場は、通勤車両の相乗りを推進
- ・現場の位置、人数により可能な限り相乗り通勤を継続的に推奨
- ・毎月第4金曜日に通勤時の相乗りを推進
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、相乗り時に除菌ウェットシートを会社で用意し、配布

【時差出勤など】

- ・公共交通機関を利用する社員に対して、フレックス制度を活用した時差出勤を奨励
- ・テレワークの実施
- ・エコ通勤者に対する表彰

【エコドライブの実践促進】

- ・社内でのエコドライブ研修の実施
- ・エコドライブに関するチラシの配付、社内イントラネット等での周知
- ・「エコドライブ10のすすめ」の周知
- ・社用車の運転日誌にエコドライブ推進の資料を貼付
- ・個人面談を行い、自動車の業務使用時の運転について話し合い
- ・会社車両の燃費を月ごとにまとめ、目標数値を設定

【その他】

- ・カーシェアリングやシェアサイクルの活用
- ・EV、PHV、HVなどのエコカーの導入
- ・社有自転車の活用
- ・会社で交通系ICカードを常備、職員へ周知

◇コロナ禍での公共交通機関利用について

公共交通機関を安全にご利用いただくため、時差出勤との併用についてもご検討ください。

公共交通機関の安全利用に関する取組や情報発信については、下記をぜひご覧ください。

・公共交通機関における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について（愛知県交通対策課）

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kotsu/covid19-aichikotsu.html>

☆エコモビを紹介する動画も配信していますので、ぜひご覧ください！

<https://www.youtube.com/watch?v=Bn40zCDn9Vk&feature=youtu.be>

この「エコモビコラム」は、毎月第1水曜日「エコモビの日」の前日に、あいちエコモビリティライフ推進協議会の構成員及び「エコモビ実践キャンペーン2022」参加企業・団体等あてに「エコモビ」関係の情報提供を目的に配信する「あいちエコモビメールニュース」（第169号～171号）からの抜粋です。

「エコモビコラム」のメールニュースへの掲載は10月から12月まで。（配信後、本紙も随時更新予定）。従業員の皆様への「エコモビ」情報周知にご活用ください。

※ エコモビコラム作成にあたり、エコモビWebサイト掲載内容のほか、以下の資料を参考にしました。

- ・国土交通省Webサイト
- ・環境省Webサイト
- ・公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団Webサイト